

奥州市議会全員協議会

日時：令和5年6月9日（金）

時 分

場所：7階 委員会室

1 開 会

2 挨 拶

3 協 議

(1) 説明事項

- ① 岩手県への奥州市からの要望（県統一要望）について
- ② 地域医療奥州市モデルについて

(2) 報告事項

- ① 岩手県競馬組合議会定例会（5/26） 報告者：小野 優 議員
- ② 奥州金ヶ崎行政事務組合議会臨時会(5/30) 報告者：佐藤正典 議員

4 そ の 他

5 閉 会

1 地域医療奥州市モデルの決定

5つの市立医療施設、県立病院や民間医療施設、それぞれの強みを生かしつつ、機能分化・連携強化を図り、ネットワーク型による地域医療体制を構築しようとする「地域医療奥州市モデル」。

モデルの内容につきまして、市議会全員協議会（3回）、地域医療懇話会（4回）、市政懇談会（6回）、出張懇談会（20回）により、議員各位や市民、医療関係者等の皆さんに説明をいたし、こうした会議や説明会の場、さらにメールやFAXを通じ、たくさんの意見・提案をいただきました。

市はこれらの意見を踏まえて必要な加除修正を施した「**地域医療奥州市モデル**」を機関決定しました。

今後は、市立医療施設、県立病院、民間医療施設それぞれの強みを生かしながら機能分化を図るとともに、人的つながりを深めつつ、医療情報のデジタル化等DXの推進によって連携を強化し、地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制の構築に向けた取り組みを可及的速やかに展開し、当市の地域医療を確保してまいります。

なお、取り組みを実施するうえでさらに詳細な検討が必要な施策もあるため、検討組織を立ち上げるなど、早期に目的を達成できるよう努めます。

【主な意見・提案】

- 持続可能な医療提供体制を担保するための医師確保対策
- 人口減少社会に備えた市立医療施設の再編統合
- 赤字体質から脱却するための市立医療施設の経営改善への取り組み
- ニーズが増大する在宅医療への対応
- 県立病院、民間医療施設との役割分担と機能分化
- デジタル化の推進
- 預かり、相談、遊び場の提供など子育て支援の充実強化
- 介護予防などヘルスケアの重要性
- 新医療センターを水沢公園陸上競技場に建設する上での懸念（江刺病院の動向、渋滞対策）
- 利用者の意見の反映

2 地域医療奥州市モデル策定の趣旨

広大な面積を有する奥州市は、その多くは中山間地域であり、採算面等から民間医療機関による医療の提供が困難な地域が多く、公的医療施設に課せられる役割は非常に大きい。

当市は、総合水沢病院、まごころ病院、前沢診療所、衣川診療所、衣川歯科診療所の5つの市立医療施設を設置し、それぞれが独自性を生かし、地域医療の確保に貢献してきた。

人口減少、高齢化の波は当市にも等しく押し寄せ、今後外来ニーズは減少しつつも、介護ニーズに関しては2030年代中盤まで増大すると予測されている。加えて、地方における医師等の不足と2024年度から始める医師の働き方改革への対応をも考慮すれば、市全体の医療資源の最適化と市立医療施設の経営改善に取り組み、安定的に医療を提供できる持続可能な地域医療体制と介護体制を早急に構築する必要がある。

このため、市では、市立医療施設、県立病院、民間医療施設それぞれの強みを生かしながら機能分化を図るとともに、人的つながりを深めつつ、医療情報のデジタル化等DXの推進によって連携を強化し、地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制を構築するものであり、目指す姿を「地域医療奥州市モデル」として策定するものである。

3 モデルの6つのコンセプト

- ①市立医療施設、県立病院、民間医療施設、それぞれの強みを生かしつつ、機能分化・連携強化を図り、地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制を構築する。
- ②住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療・介護・福祉が緊密に連携した地域包括ケアシステムを充実させるとともに、その一端を担える医療体制を構築する。
- ③ネットワーク型地域医療体制の構築作業に併せ、市立医療施設の経営改善の取り組みも並行して進め、医療資源の最適化を図る。その後、人口動態による医療ニーズの変化や施設の老朽化、医療従事者の確保状況に応じ、市立医療施設のダウンサイジングや集約化について検討を進める。
- ④持続的で安定的な地域医療体制を構築するため、市立医療施設の経営改善と医師確保対策について、外部有識者の意見も踏まえ、実効性のある取り組みを行う。
- ⑤医療情報のデジタル化を推進し、医療施設間における情報の共有化を進め、患者の利便性向上、業務の効率化を図る。
- ⑥地域医療奥州市モデルの実効性を高めるため、新医療センターの整備を進める。現在の急性期主体の医療体制から回復期を主体とした医療体制にシフトした病院機能と、住民ニーズの高い子育て支援機能及びヘルスケア機能を備えた施設とするが、機能等の詳細については、市民、関係者、外部有識者による検討組織を立ち上げ、さらに検討を進める。

4 モデル実現に向けた取り組み

◎地域医療の強化・地域包括ケアシステムの推進

- 市立医療施設、県立病院、民間医療施設の強みを生かしたネットワーク型地域医療体制の構築、医師不足への対応
- 回復期病床の増床や職員の拡充によるリハビリ機能の強化、訪問看護ステーション機能の強化、モバイルクリニックの活用、在宅医療介護連携拠点の設置
- へき地医療の維持、モバイルクリニックによる遠隔医療の運用

◎市立医療施設の経営改善

- 医業収支比率・病床稼働率の向上、適正な人員配置、徹底したコスト削減、患者満足度向上に向けた取り組み
- 医師確保の強化、コメディカルの活用によるチーム医療の推進、県立病院と連携した医師養成プログラムの実施、院内保育所の設置
- 医療情報のデジタル化の推進、医療・介護・行政など多職種間での情報共有の促進、災害等に備えたデータ管理のクラウド化、RPA導入による業務効率化

◎子育て・ヘルスケアの充実

- 妊産婦のための給付金支給、タクシー助成、宿泊助成、医療費助成、不妊治療助成、ホームページ・SNS・ガイドブックなど情報発信の強化、各種子育てサポートの充実
- 産前産後ケア事業の実施、相談機能の強化、病後児保育の実施、子どもの遊び場の設置
- 高齢者のフレイル対策、健診事業の強化、健康増進事業の実施、奥州歯科医師会と連携した口腔ケアの推進

5 その他

地域医療奥州市モデルに登載の新医療センターに係る進め方等につきましては、下記日程で議員各位に説明をすることとしています。

また、新医療センターの検討に当たって必要となる予算につきましては、追加補正予算について提出させていただきたいと考えています。

- 6月22日（木）頃 市議会全員協議会（新医療センター検討の進め方と補正予算）
- 6月28日（水） 市議会本会議（新医療センター検討に係る関連予算の審議）

地域医療奥州市モデルについて

6 モデルのイメージ図



◆地域包括ケアシステムの
充実



◆急性期医療から回復期医療へのシフト
◆母子・子育て支援機能
◆ヘルスケア機能

新医療センター



◆医師の働き方改革
◆持続可能な病院経営

市立病院

県立病院
(広域)



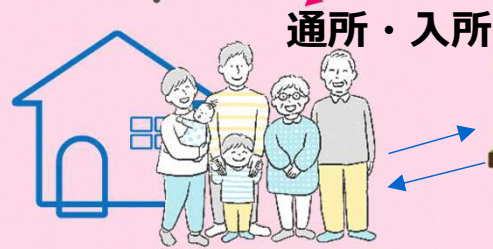
モバイルクリニック
による遠隔医療

クラウド



医療情報の共有・
ネットワーク化

◆DXの推進



通所・入所

介護施設

訪問介護

◆医療施設間における
機能分化と相互連携

救急医療
高度医療
出産



宿泊支援

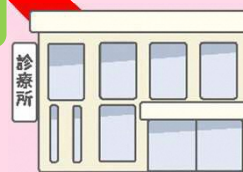


移動支援



公共交通

◆へき地医療の提供



市立診療所



民間医療施設



民間産婦人科

◆周産期サポート



妊婦・
胎児情報

妊婦健診

モバイルクリニック
による遠隔医療

地域医療奥州市モデル

奥州市

令和5年6月

1 地域医療奥州市モデルとは

公立病院をはじめとする公的医療施設の果たすべき役割は、端的に言えば、地域において提供されることが必要な医療のうち、採算性等の面から民間医療施設による提供が困難な医療を提供することにある。公立病院に期待される主な機能を具体的に例示すれば、山間へき地・離島など民間医療施設の立地が困難な過疎地等における一般医療の提供、救急・小児・周産期・災害・精神などの不採算・特殊部門に関わる医療の提供などが挙げられる。

広大な面積を持つ奥州市は、北上川沿いの市街地地域を除く山間地域の多くは過疎地域や辺地地域に指定されており、こうした地域においては公的医療施設に課せられた役割は非常に大きいものがある。

奥州市には、総合水沢病院、まごころ病院、前沢診療所、衣川診療所、衣川歯科診療所の5つの市立医療施設があるが、こうした地域特性の中で、それぞれが独自性を生かし、地域医療の確保に貢献してきた。

しかしながら、人口減少、高齢化の波は奥州市にも等しく押し寄せ、今後外来ニーズは減少しつつも、介護ニーズに関しては2030年代中盤まで増大すると予測されている。また、地方における医師・看護師等医療従事者の慢性的な不足と2024年度から始める医師の働き方改革への対応をも考慮すれば、市全体の医療資源の最適化を図りながら、市立医療施設の経営改善にも取り組み、将来的にも安定して医療を提供できる持続可能な地域医療体制及び介護体制を早急に構築する必要がある。

こうしたことから、市では、5つの市立医療施設、県立病院、民間医療施設、それぞれの強みを生かしながら機能分化を図るとともに、人的つながりを深めつつ、医療情報のデジタル化などDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進によって連携を強化し、地域全体をカバーするネットワーク型地域医療体制を構築しようとするものであり、目指す姿を「地域医療奥州市モデル」として示すものである。

2 地域医療奥州市モデルの6つのコンセプト

- (1) 市立医療施設、県立病院、民間医療施設、それぞれの強みを生かしつつ、機能分化・連携強化を図り、地域全体をカバーするネットワーク型地域医療体制を構築する。
- (2) 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療・介護・福祉が緊密に連携した地域包括ケアシステムを充実させるとともに、その一端を担うための医療体制を構築する。
- (3) ネットワーク型地域医療体制の構築作業に併せ、市立医療施設の経営改善の取り組みも並行して進め医療資源の最適化を図る。その後、人口動態による医療ニーズの変化、施設の老朽化、医療従事者の確保状況に応じ、市立医療施設

のダウンサイジングや集約化について検討を進める。

- (4) 持続的で安定的な地域医療体制を構築するため、市立医療施設の経営改善と医師確保対策について、外部有識者の意見も踏まえ、実効性のある取り組みを行う。
- (5) 医療情報のデジタル化を推進し、医療施設間における情報の共有化を進め、患者の利便性向上、業務の効率化を図る。
- (6) 地域医療奥州市モデルの実効性を高めるため、新医療センターの整備を進める。現在の急性期主体の医療体制から回復期を主体とした医療体制にシフトした病院機能、住民ニーズの高い子育て支援機能及びヘルスケア機能を備えた施設とするが、機能等の詳細については、市民、関係者、外部の有識者による検討組織を立ち上げ、さらに検討を進める。

3 地域医療奥州市モデルの実現に向けた取り組み

◎地域医療の強化・地域包括ケアシステムの推進

- 市立医療施設、県立病院、民間医療施設の強みを生かしたネットワーク型地域医療体制の構築、医師不足への対応
- 回復期病床の増床や職員の拡充によるリハビリ機能の強化、訪問看護ステーション機能の強化、モバイルクリニックの活用、在宅医療介護連携拠点を設置
- へき地医療の維持、モバイルクリニックによる遠隔医療の運用

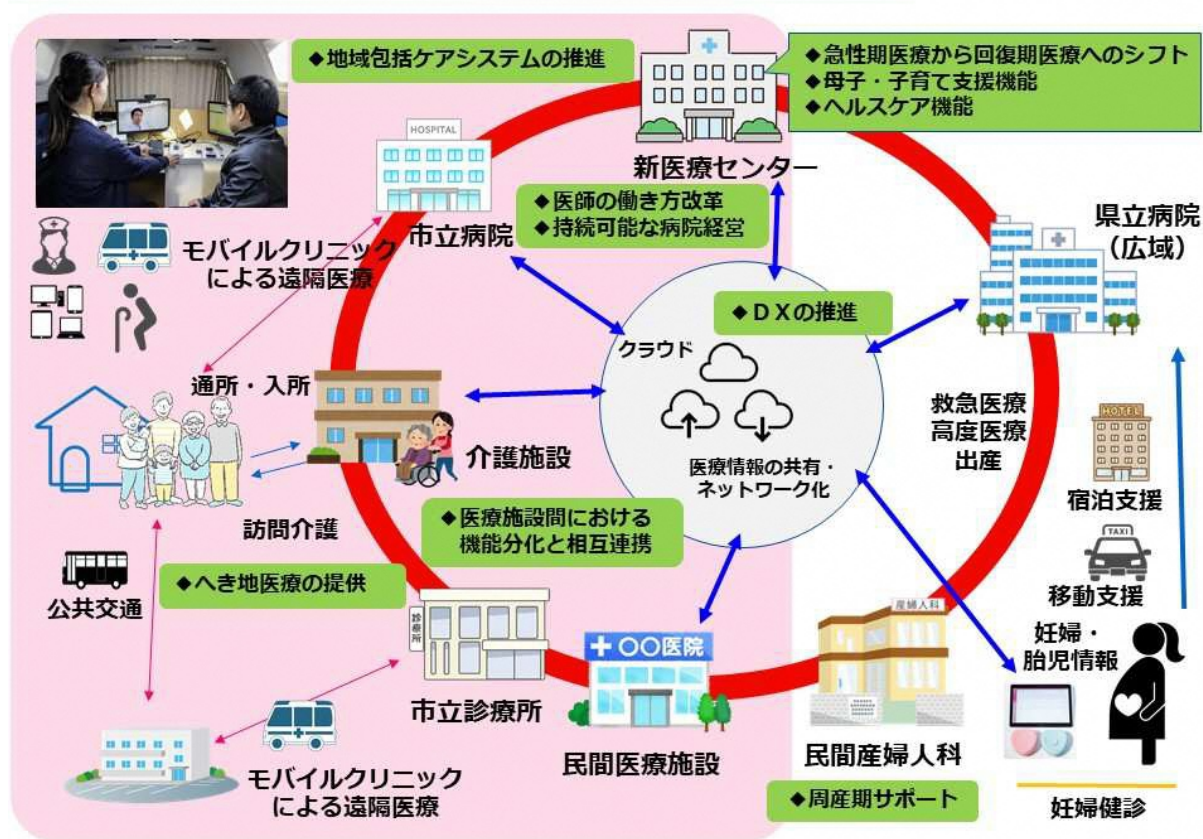
◎市立医療施設の経営改善

- 医業収支比率・病床稼働率の向上、適正な人員配置、徹底したコスト削減、患者満足度向上に向けた取り組み
- 医師確保の強化、コメディカルの活用によるチーム医療の推進、県立病院と連携した医師養成プログラムの実施、院内保育所の設置
- 医療情報のデジタル化の推進、医療・介護・行政など多職種間での情報共有の促進、災害等に備えたデータ管理のクラウド化、RPA導入による業務効率化

◎子育て・ヘルスケアの充実

- 妊産婦のための給付金支給、タクシー助成、宿泊助成、医療費助成、不妊治療助成、ホームページ・SNS・ガイドブックなど情報発信の強化、各種子育てサポートの充実
- 産前産後ケア事業の実施、相談機能の強化、病後児保育の実施、子どもの遊び場の設置
- 高齢者のフレイル対策、健診事業の強化、健康増進事業の実施、奥州歯科医師会と連携した口腔ケアの推進

4 地域医療奥州市モデルイメージ図



5 地域医療奥州市モデルの取り扱い

市では、この地域医療奥州市モデルに掲げた取り組みを可及的速やかに展開する。

また、その時々々の社会情勢や時代背景の変化、さらには本モデルに基づく各種取り組みの実践による成果や新たに生じる諸課題について、随時見直しを図ることとする。

なお、取り組みを実施するうえで、さらに詳細な検討が必要な施策もあるため、検討組織を立ち上げるなど、早期に目的を達成できるよう努力する。